

登録コード	L1931600	開講年度	2026				
担当教員	佐藤 真紀			副担当			
授業科目	西洋史基幹演習						
英文授業名	European and American History: Basic Seminar						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	水曜・5時限
講義室	人文第2講義室	遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること		
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。 【思索力・受容力・批判力】			西洋近代社会についての理解を深める			
授業で学べる「テーマ」	芸術文化						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	出席者各自の研究テーマについて、報告をしてもらう。報告の内容について、議論をする。						
授業計画	学生の研究等により各回の計画を変更することがありえる。 第1回：ガイダンス 第2回：レジュメの書き方指導 第3回：第1グループ、読んでお話・あるいは報告 第4回：第2グループ、読んでお話・あるいは報告 第5回：第3グループ、読んでお話・あるいは報告 第6回：第4グループ、読んでお話・あるいは報告 第7回：第5グループ、読んでお話・あるいは報告 第8回：第6グループ、読んでお話・あるいは報告 第9回：第7グループ、読んでお話・あるいは報告 第10回：再調査発表会 第11回：再調査発表会 第12回：再調査発表会 第13回：再調査発表会 第14回：再調査発表会 第15回：反省会 授業アンケート						
成績評価の方法	研究報告の内容80パーセント、討論20パーセントで評価する。						
成績評価の基準	出席をすることが前提条件である。報告の内容が、よく整理されていて、さらなる問題を提起するものであれば『かなり上にある』と評価される。報告の内容が、よく整理されていれば、『やや上にある』と評価される。報告の内容がまとまっていないが、努力が認められる場合には『その水準にある』と評価される。『かなり上にある』の条件を満たしたうえで、外国語文献も含めた広い情報源から考察を試みたものは『卓越している』と評価される。						
事前事後学習の内容	事前に各自のテーマに必要な文献を読んでおくこと。 事後に、不足していた情報を補う文献を調べて読んでおくことが望ましい。						
履修上の注意	特になし。						
質問、相談への対応	maquis@shinshu-u.ac.jpにご連絡ください。						
教科書	授業時に指示する。						
参考書	授業時に適宜指示する。						